

ENVI5.7 / IDL8.9 インストールガイド

目次

はじめに	1
本製品をインストールするにあたって	1
サポートプラットフォーム	1
ENVI/IDL サポートプラットフォーム	1
License Server サポートプラットフォーム	2
既知の問題	3
デフォルトのインストールディレクトリについて	3
製品が使用できるまでの流れ	5
新規ご購入の場合	5
バージョンアップの場合	6
ライセンス申請	7
製品ダウンロードサイトにログインする	7
製品のダウンロード	8
ソフトウェアのインストール方法	9
Windows へのインストール方法	9
Linux へのインストール方法	13
Macintosh へのインストール方法	16
ルートユーザを有効にする方法	18
ソフトウェアのライセンス設定	19
認証コードを確認する	19
License Administrator とは	19
License Administrator の起動方法	19
マシン固定ライセンスとして認証する	21
バージョンアップの場合	21
新規ご購入の場合	21
ライセンスサーバとして認証する	23
ライセンスサーバ認証の注意事項	23
License Server をダウンロードする	23
License Server をインストールする	23
ライセンス認証する	30
バージョンアップの場合	30
新規ご購入の場合	31
クライアントとしてライセンス認証する	34
ソフトウェアの起動方法	34
Windows の場合	34
ENVI の起動方法	34
IDL の起動方法	35
Linux の場合	35
環境の設定	35
ENVI 起動コマンド	36

IDL 起動コマンド	37
Macintosh の場合	37
Applescript からの実行	37
ターミナルからの実行	38
ライセンスサーバの管理 (ライセンス管理者用)	39
License Server のインストール	39
License Server のアンインストール	39
Windows の場合	39
Linux の場合	39
ライセンスの認証	40
有効なライセンスフィーチャーを確認する	40
Windows の場合	40
Linux の場合	41
ライセンスサーバサービスの管理	42
Windows の場合	42
Linux の場合	42
ライセンスを無効化する	43
マシン固定ライセンスの場合	43
License Administrator から変更する	43
ライセンスサーバの場合	43
License Administrator から変更する	43
Appendix	44
ENVI / IDL のアンインストール手順	44
コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する	45
マシン固定ライセンスとして認証する	45
ライセンスサーバとして認証する	46
クライアントとしてライセンス認証する	47
コマンドラインを使ってライセンスを無効化する	48
マシン固定ライセンスの場合	48
ライセンスサーバの場合	49
マシンを変更する	50
ライセンス数を変更する	50
故障などでマシンにアクセスできなくなった場合	50
お問い合わせ先	51

はじめに

本書では、ENVI5.7/IDL8.9のインストールとライセンス設定の手順を記載いたします。また、ネットワーク環境において複数のクライアントが参照するライセンスサーバの設定方法について説明します。なお、本書で問題を解消できなかった場合は、弊社のサポート窓口（support_jp@nv5.com）にお問い合わせください。

本製品をインストールするにあたって

ここでは、ENVI5.7/IDL8.9 をインストールするにあたって、事前にご確認いただく内容について記載します。

サポートプラットフォーム

ENVI/IDL サポートプラットフォーム

ENVI5.7/IDL8.9 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。

これからソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはインターネット接続が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン ^a
Windows	Intel / AMD 64-bit	Windows	10, 11
Macintosh	M1 / Intel 64-bit ^b	macOS	11.5, 12 ^c
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 4.18.0 glibc 2.28

a: サポートバージョン中の記載は、ENVI/IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されます。

b: Mac M1 には Rosetta 2 emulator が必要です。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.8.5にて動作確認をしております。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help の表示には HTML5 対応ブラウザを必要とします。

また、現行の ENVI の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core 推奨 4Core 以上 ENVI の動作上は、Advanced Vector Extensions (AVX)命令セットを備えた CPU が搭載されていることが条件

License Server サポートプラットフォーム

ライセンスサーバのサポートプラットフォームを以下の表に示します。

ENVI/IDL のライセンスサーバ (License Server) をインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。MacOS はライセンスサーバとしては動作いたしません。また、ライセンス認証にはインターネット接続が必要になります。

オペレーティングシステム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64-bit	x86-64	Windows Server 2016, 2019 Windows 10, 11
Linux	x86-64	CentOS 7 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7 Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8 Ubuntu 16, 18, 21.10 Debian 11

また、現行の License Server 4.1 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	500MB
メモリ	4 GB
CPU	2GHz – 2 Cores サードパーティ製品の動作仕様上は、Advanced Vector Extensions (AVX)命令セットを備えた CPU が搭載されていることが条件

既知の問題

本製品をインストールしていただくにあたり、以下に既知の問題点を記載いたします。回避策を行っても問題が解決されない場合は support_jp@nv5.com までお問い合わせください。

1. マルチバイト文字を使用したディレクトリにインストールした場合、IDL ワークベンチが起動しない原因となります。

ENVI / IDL をマルチバイト文字が入ったディレクトリへインストールした場合、idlde.ini ファイルへのパス名が正しく認識されない可能性があります。

回避策（64bit 版）：

<INSTALL_DIR>%IDLxx¥bin¥bin.x86_64¥idlde.ini ファイルの以下行のパス情報を編集してください。

2 行目：<INSTALL_DIR>%IDLxx¥bin¥bin.x86_64¥re¥bin

14 行目：<INSTALL_DIR>%IDLxx¥bin¥bin.x86_64¥configuration

※xx はバージョンを示します。

2. cannot restore segment prot after reloc: Permission denied

セキュリティが強化されている Linux で、cannot restore segment prot after reloc: Permission denied のエラーにより IDL が起動できない場合があります。最近の Linux の一部のバージョンは Linux Security Modules framework を使用し Linux カーネルで強制アクセスコントロールが実装されています。その様な環境で IDL を動作させるためには IDL バイナリのためにセキュリティの編集が必要です。SELinux を”disable”と設定するか、IDL が動作できるようにセキュリティを変更してください。

詳細：

<https://www.nv5geospatialsoftware.com/Support/Self-Help-Tools/Help-Articles/Help-Articles-Detail/ArtMID/10220/ArticleID/19352/3092>

3. Linux は 64bit ライブラリのインストールが必要です。

RedHat では libXp、libXpm、libXmu の 64bit バージョンのパッケージが必要です。そのライブラリは RHEL や Fedora など Red Hat を基本とした Linux ではデフォルトでインストールされておりません。

以下のコマンドで必要なライブラリをインストールすることが可能です。

```
yum install libXp.x86_64
```

```
yum install libXpm.x86_64
```

```
yum install libXmu.x86_64
```

```
yum install libnsl
```

デフォルトのインストールディレクトリについて

ENVI5.6 SP3 以前のデフォルトインストールディレクトリと同じになります。インストールディレクトリはインストール時に任意の場所に指定することも可能ですが、特別の事情が無い限りデフォルトディレクトリをご利用ください。ENVI5.7 のデフォルトのインストールディレクトリは以下になります。

Windows の場合 : C:\Program Files\Harris
Linux の場合 : /usr/local/harris
Macintosh の場合 : /Applications/harris

製品が使用できるまでの流れ

新規ご購入の場合

1. ご購入と納品

弊社から製品をご購入いただきますと、本紙、簡易手順書、各種書類をご郵送にてお届けいたします。



2. ライセンス申請

P7「ライセンス申請」の手順で、弊社 WEB サイトよりご購入製品の新規ライセンス申請を行ってください。申請内容が受理されると、お客様のライセンスが発行され、認証コードを案内するメールが送信されます。



3. 製品ダウンロードサイトにログインする

P8「製品のダウンロード」を参照し、製品ダウンロードサイトへのユーザ登録を行ってください。製品ダウンロードサイトのユーザアカウントをすでに作成済みである場合には、そちらの情報でログインしてください。未登録の場合には新規のアカウント作成が必要です。



4. 製品ダウンロードサイトから製品ダウンロード

P8「製品のダウンロード」の手順で、製品をダウンロードしてください。



5. 製品のインストール

P9「ソフトウェアのインストール方法」に従い、インストールする OS に応じた手順でインストールしてください。



6. ソフトウェアライセンスの設定

P19「ソフトウェアのライセンス設定」に従い、ご希望のライセンス形態に応じた手順でライセンス認証を実施し、製品を使えるようにします。



7. 製品の起動

P34「ソフトウェアの起動方法」に従い、起動する OS に応じた手順で製品を起動してください。

バージョンアップの場合

1. バージョンアップサービス契約の確認

バージョンアップは、バージョンアップサービス契約が有効なユーザー様のみ可能となっております。ご利用のライセンスのバージョンアップサービス契約が期限内であることをご確認ください。



2. バージョンアップするライセンスの認証コードを確認する

認証中の既存の認証コードを継続使用しますので、ご契約中の認証コードをご用意ください。認証コードは製品インストール後のソフトウェアライセンスのバージョンアップ設定で使用します。



3. 製品ダウンロードサイトから製品ダウンロード

P8「製品のダウンロード」の手順で、製品をダウンロードしてください。
製品ダウンロードサイトのユーザーアカウントは、既存のものをお持ちでしたらそちらを、お持ちでない方は新規登録してご利用ください。



4. 製品のインストール

P9「ソフトウェアのインストール方法」に従い、インストールする OS に応じた手順でインストールしてください。



5. ソフトウェアライセンスバージョンアップの設定

P19「ソフトウェアのライセンス設定」に従い、ご希望のライセンス形態に応じた手順でライセンス認証を再実施すると、お手持ちのライセンスのバージョン情報が更新されます。同一マシン上で同一認証コードを再認証する際は、一旦 Deactivate する必要があります。



6. 製品の起動

P34「ソフトウェアの起動方法」に従い、起動する OS に応じた手順で製品を起動してください。

ライセンス申請

ご購入いただいたライセンスの情報の確認と顧客情報登録のために以下の手順で弊社 WEB サイトからライセンスを申請してください。

1. 以下の URL にアクセスしてください。

【製品ライセンス申請 URL】

https://www.nv5geospatialsoftware.co.jp/register_newlic_jp

2. WEB ページに従って、申請種別を選択して申請フォームに入力し、送信ボタンをクリックしてください。初めてライセンスを発行される方は、新規、を選択してください。

製品ダウンロードサイトにログインする

新規ご購入の方は、前項の「ライセンス申請」を行っていただいた後、製品のダウンロードサイトへ以下の手順でログインしてください。

1. 以下の米国本社ホームページ上の製品ダウンロードサイトにアクセスします。

【製品ダウンロードサイト URL】

<https://portal.nv5geospatialsoftware.com/auth/sign-in>



図 1：製品ダウンロードサイトログイン画面

2. ログイン画面が表示されますので、ご登録の Username と Password を入力してログインします。Username と Password は、ENVI5.4.0 以降のバージョンで使用していた Harris Download and License Center や、2024 年 4 月以前の製品ダウンロードサイトでご登録いただいているものとは異なります。

初登録のユーザ様は、ユーザアカウントを新規登録の上、ログインしてください。なお、新規ユーザ登録には 24 時間程度のお時間をいただいておりますのでご了承ください。

3. 新規登録、あるいはパスワード再設定が完了しましたら、ログインしてください。

製品のダウンロード

ENVI/IDL は、製品ダウンロードサイトよりダウンロードしていただけます。ここでは製品ダウンロードサイトからの製品ダウンロードの手順を説明します。

1. 前項に従い以下の URL より製品ダウンロードサイトにログインしてください。

【製品ダウンロードサイト URL】

<https://portal.nv5geospatialsoftware.com/auth/sign-in>

2. ログインすると、Product Downloads のページが開きます。

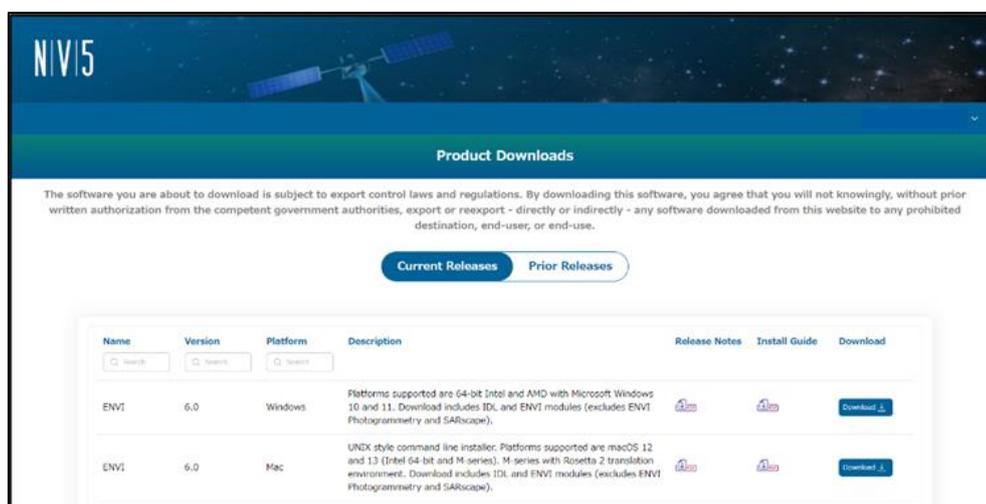


図 2 : Product Downloads

3. Product Downloads のページから製品のダウンロードを行います。インストールするマシンの OS と製品バージョンに対応するインストーラをダウンロードしてください。フローティングライセンス形態で利用する場合は、License Server プログラムも一緒にダウンロードしてください。
4. ダウンロードが完了しましたらインストールを行います。P9「ソフトウェアのインストール方法」に進んでください。

ソフトウェアのインストール方法

この章では、ENVI5.7/IDL8.9 のインストール方法について説明します。

Windows へのインストール方法

以下の手順に従って Windows 版のソフトウェアをインストールしてください。また、インストールを行うには管理者権限または管理者グループのメンバーであることが必要です。この権限がないと、インストールプロセスはマシンのシステム構成を変更することができず、インストールに失敗します。ソフトウェアのインストール終了後、これらを起動する場合には管理者権限は必要ありません。

図は ENVI5.7 ですが、IDL8.9 の場合もインストール手順は同様です。

1. ダウンロードしたインストーラをダブルクリックします。
※インストール DVD の場合: DVD をコンピュータに挿入すると自動的に手順 2 に進みます。
2. ようこそ (Welcome) 画面が表示されますので、Next をクリックし次のダイアログに進んでください。

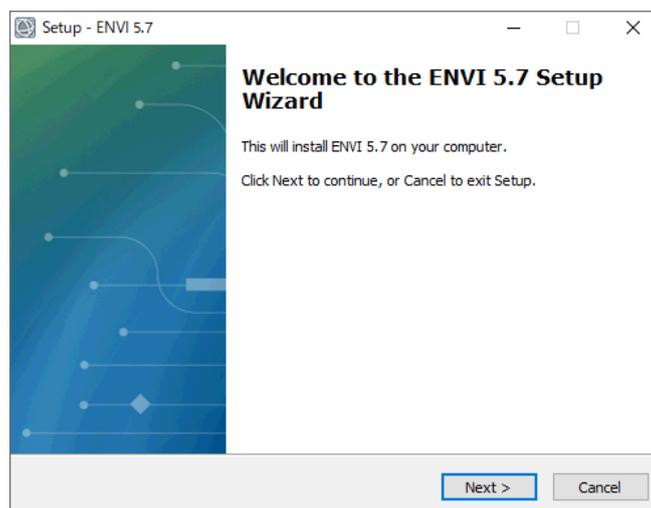


図 3 : Welcome

3. ライセンス同意書が表示されますので、同意する場合は「I accept the agreement」を選択し、Next をクリックします。

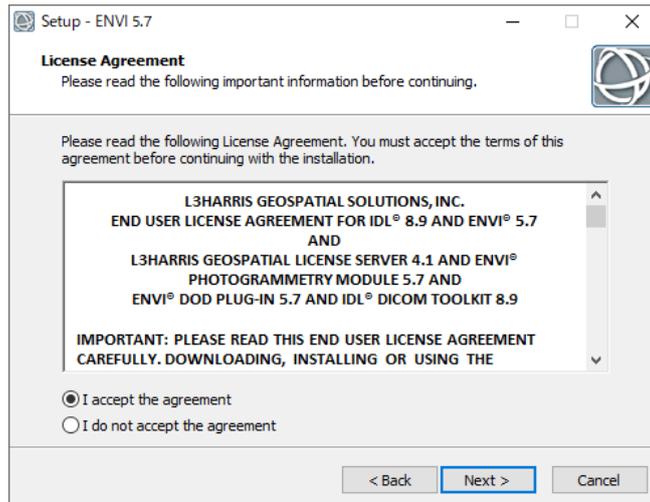


図 4 : License Agreement

4. インストール先フォルダを選択します。デフォルトでは C:\Program Files\Harris となっております。デフォルトのフォルダにインストールするにはそのまま Next をクリックしてください。別の場所にインストールする場合は、Browse をクリックしフォルダ選択ダイアログで別のフォルダを選択してください。特別な事情がない場合はデフォルトのインストール先を使用してください。

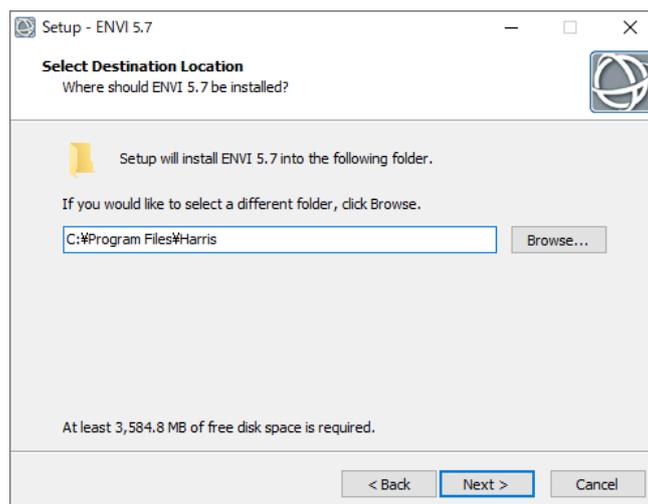


図 5 : Select Destination Location

5. インストールする製品構成を選択し、Next をクリックします。DataMiner は DB アクセス用の ODBC ドライバ (有償) です。

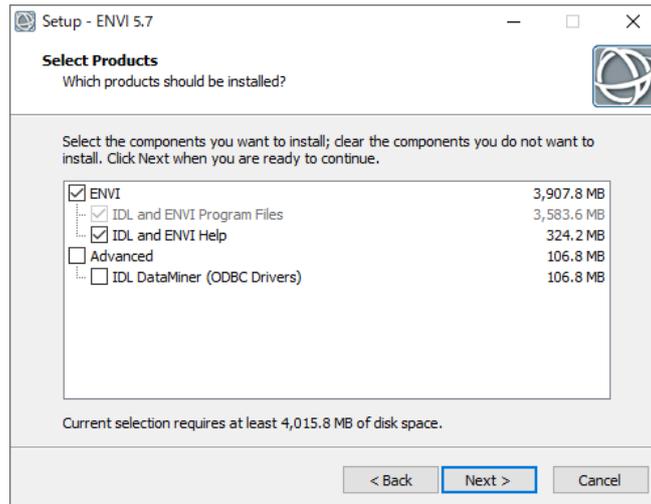


図 6 : Select Products

6. 確認画面が表示されます。内容をご確認の上、Install をクリックしてください。

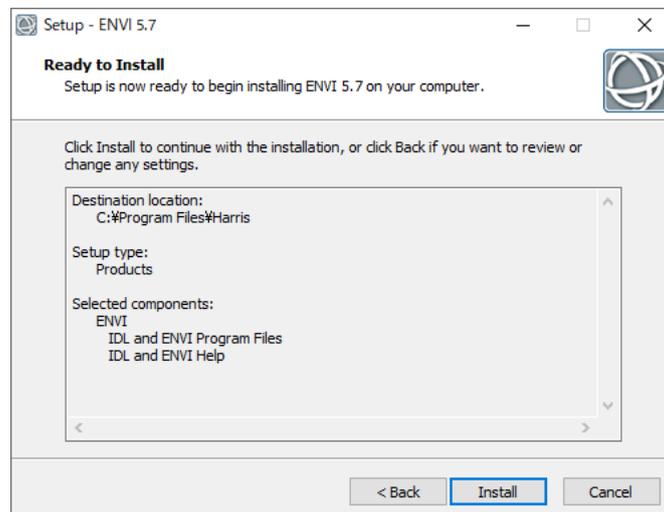


図 7 : Ready to Install

7. プログラムのインストールが開始されます。インストールを中止する場合は、Cancel をクリックしてください。
8. インストール完了画面が表示されます。続いて GSF のインストールが可能ですが、必要ない場合はチェックを外して Finish してください。インストールする場合はチェックをしたまま Finish をクリックしてください。GSF のインストールが終了すると再起動を促されます。



図 8 : Completing the ENVI5.7 Setup Wizard

9. 以上でプログラムのインストールは完了です。インストールが完了すると、License Administrator の起動の確認ダイアログが表示されます。マシン固定のライセンスを設定する方は、「はい」を選択してください。ライセンスサーバとしてライセンス認証する場合は別途 License Server のインストールが必要です。「いいえ」を選択してください。最後にインストール完了のメッセージが表示され、ソフトウェアのインストールが完了となります。P19 「ソフトウェアのライセンス設定」に進んでください。

※ライセンス認証を行わないと製品を使用することはできません。

Linux へのインストール方法

以下の手順に従って Linux 版のソフトウェアをインストールしてください。Linux 版のソフトウェアをパブリックディレクトリにインストールする場合は、インストールスクリプトを実行する前に、ログインしているユーザがルートまたは同等のアクセス権限が必要です。Linux 版のソフトウェアのインストールは、ターミナル内にて行ないます（グラフィカルユーザインターフェースベースではありません）。

1. ダウンロードしたインストーラを解凍します。

```
# gunzip envixx-linux.tar.gz
# tar -xf envixx-linux.tar
```

※**xx**はバージョンを示します。

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、ディスクドライブにソフトウェアのインストールディスクを挿入してください。Linux の場合、オートマウントが不正な許可で実行されることがあります。インストールする際、アンマウントとマウントコマンドを以下のように入力するとインストールがスムーズに行えます。

[コマンド例: DVD ドライブが/dev/hdc の場合]

```
# umount /dev/hdc
# mount -o ro -t udf /dev/hdc /media
```

2. 解凍先のディレクトリ内の `install.sh` を実行してインストールを開始します。以下のコマンドを入力してください。

```
# ./install.sh
```

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、DVD 内の `install.sh` を実行してください。

```
# /bin/sh /DVD-PATH/install-unix.sh
```

(DVD-PATH は DVD ドライブのパスです。上記手順 1 の例では `/media` となります。)

3. ライセンス同意書が表示されますので、同意する場合は「y」を入力してください。

[入力例:ライセンス同意書に同意する場合(Linux の場合)]

```
Do you accept all of the terms of the preceding license agreement? (y/n): y
```

4. インストール場所を決定してください。何も入力しなかった場合は、ソフトウェアのデフォルトインストールディレクトリ (`/usr/local/harris`) にインストールされます。

[入力例 : `/usr/local/harris` を指定する場合(Linux の場合)]

```
-----  
ENVI 5.7 Installer  
-----  
Please enter the directory to install in  
  (e.g. "/usr/local/harris ")  
  
/usr/local/harris
```

5. 各ヘルプのインストールを行うかどうかを決定します。インストールする場合は「y」を、インストールしない場合は「n」を入力してください。

[入力例 : Help をインストールする場合(Linux の場合)]

```
IDL and ENVI Help files? (y/n): y
```

6. インストールするプロダクトやインストール先を再度確認し、問題なければ「y」を入力してください。

[入力例:Linux にインストールする場合]

```
-----  
Installation Summary:  
-----  
  
  ENVI 5.7  
  Installation location: /usr/local/harris  
  Login: root  
Products:  
  ENVI  
  IDL  
  IDL and ENVI Help files  
Platforms:  
  Linux - X86 (64-bit)  
  
Install the above configuration? (y/n):y
```

7. プログラムのインストールが開始されます。プログラムのインストールが終了すると、次に、ソフトウェアの起動に必要なシンボリックリンクの設定を行います。設定を行う場合は「y」を選択してください。設定を行わない場合は「n」を選択してください。

[入力例：設定を行う(Linux の場合)]

```
Do you want to create the symbolic links in /usr/local/bin? (y/n): y
```

8. **License Administrator** (GUI (グラフィカルユーザインターフェース) ベースのライセンス管理ツール) を起動するかどうかを決定します。**License Administrator** を使ってマシン固定のライセンスを設定する方は、「y」を選択してください。ライセンスサーバとしてライセンス認証する場合は **License Server** のインストールが必要となりますので一旦「n」を選択してください。最後にインストール完了のメッセージが表示され、ソフトウェアのインストールが完了となります。**P19**「ソフトウェアのライセンス設定」に進んでください。

※ライセンス認証を行わないと製品を使用することはできません。

[入力例：License Administrator を起動する場合 (Linux の場合)]

```
Do you want to run the License Administrator? (y/n): y
```

※インストール時、シンボリックリンクを作成しなかった場合は、起動に必要なパス環境設定をする必要があります。環境設定セットアップファイル (`envi_setup` など) の設定に関しましては、ライセンスの設定が完了した後に、**P35**「ソフトウェアの起動方法 -> Linux の場合」に従って設定してください。

```
-----  
Installation Complete:  
-----
```

```
The installation has successfully been completed.
```

Macintosh へのインストール方法

以下の手順に従って Macintosh 版のソフトウェアをインストールしてください。また、Macintosh 版のソフトウェアをパブリックディレクトリにインストールする場合は管理者権限が必要です。Macintosh 版のライセンス設定を行うには、ルートユーザを有効にしておく必要があります。

※Macintosh 版の License Administrator の起動・ENVI / IDL のグラフィック表示には、Apple X11 Xwindow マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz はバージョン 2.8.5 にて動作の確認を行っております。

1. ビルトインのルートユーザを使用し、ログインしてください。ルートユーザを有効にする方法やログイン方法の詳細は、P18「ルートユーザを有効にする方法」を参照してください。
2. ダウンロードしたインストーラをダブルクリックします。
3. ようこそ画面が表示されますので、「続ける」をクリックして次のダイアログに進んでください。

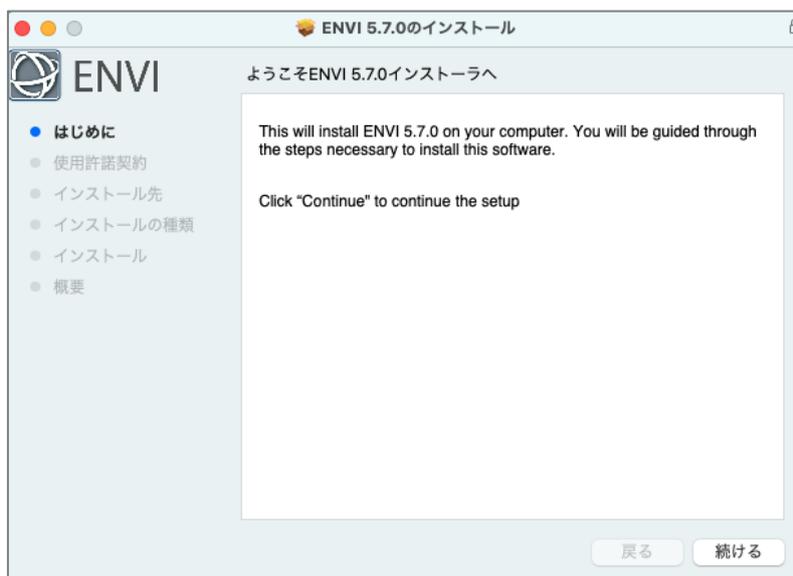


図 9：インストール開始

4. 使用許諾契約の画面が表示されますので、同意する場合は「続ける」をクリックします。別のダイアログが表示されますので、「同意する」をクリックしてください。

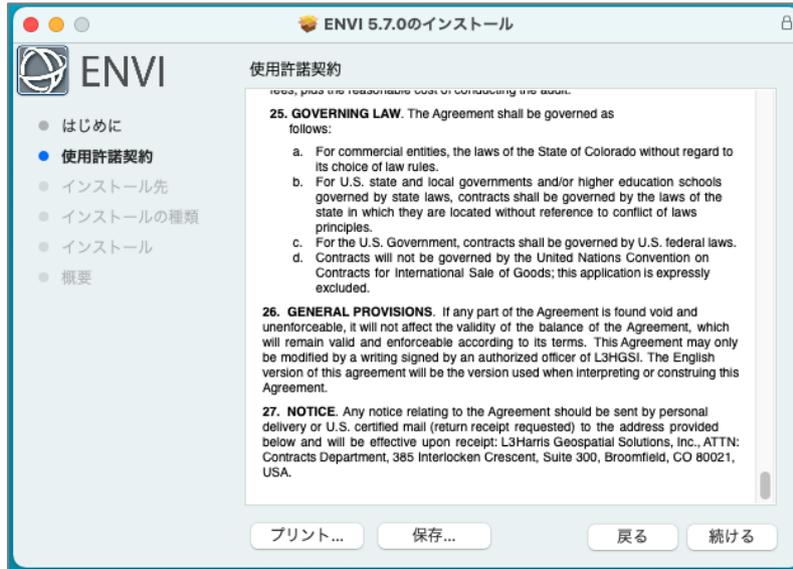


図 10 : 使用許諾契約

- 次のダイアログにおいて「インストール」をクリックし、インストールを開始してください。デフォルトの設定では、「/Applications/harris/」フォルダ内にプログラムがインストールされます。それ以外の場所にインストールを希望する場合は、「インストール先を変更」をクリックし、インストール先を変更してください。

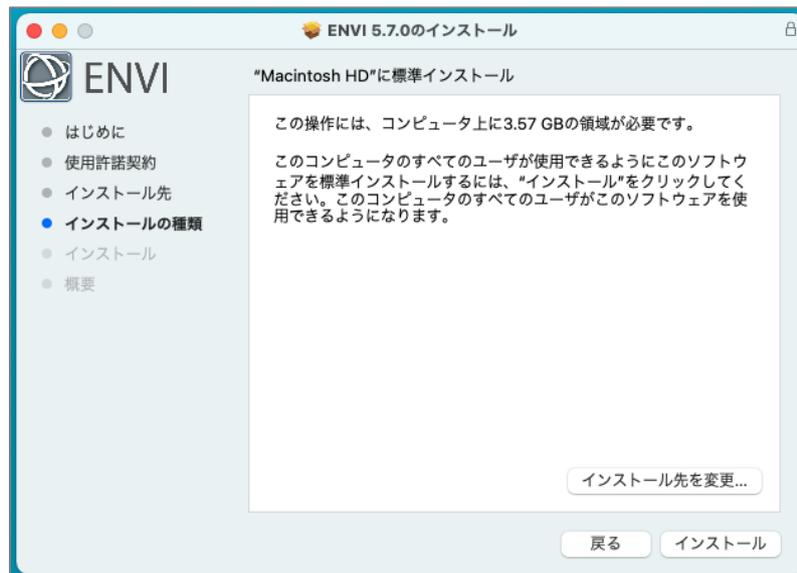


図 11 : インストールディレクトリ

- 以上でソフトウェアのインストールの完了です。「閉じる」をクリックしてウィザードを終了してください。自動的に Harris Administration Tool が起動しますので、P19「ソフトウェアのライセンス設定」に進みライセンスを設定してください。



図 12 : インストールの完了

ルータユーザを有効にする方法

この設定は、Apple 社の Mac OS X の設定となりますので更なる詳細情報やサポートに関しましてはメーカーに直接お問い合わせください。

参考: <https://support.apple.com/ja-jp/HT204012>

ソフトウェアのライセンス設定

この章では、ソフトウェアのライセンスの設定方法について説明します。ライセンス設定には、Windows の場合は管理者権限または管理者グループのメンバーであること、Linux / Macintosh の場合にはルートユーザの権限が必要です。権限がないユーザでは正常に設定できないため注意してください。また、ご利用のライセンス形態によりライセンスの設定方法が異なります。利用できるライセンス形態は 2 種類あり、このガイドでは、1 台の固定マシン上で占有して使用できるライセンス形態を「マシン固定ライセンス」、1 台のマシンをライセンスサーバとして同一 LAN 上にある複数のクライアントマシン上で使用できるライセンス形態を「フローティングライセンス」と呼びます。ライセンスの認証コードをご確認いただいた後、以下のように進んでください。

●マシン固定ライセンスの場合：

P21 「マシン固定ライセンスとして認証する」に進んでください。

●フローティングライセンスのライセンスサーバの場合：

P23 「ライセンスサーバとして認証する」に進んでください。

●フローティングライセンスのクライアントの場合：

P34 「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

認証コードを確認する

マシン固定のライセンス、またはライセンスサーバとしてライセンスを認証する場合には、認証コードが必要です。ライセンス発行/更新時に弊社から送られる認証コードを記載したメールを確認してください。メール内の 16 桁の英数字が認証コードです。各製品、オプションモジュールごとに発行されます。

License Administrator とは

License Administrator とは、グラフィカルユーザインターフェース (GUI) ベースのライセンス管理ツールです。ライセンスの認証と無効化、ライセンスサーバの認証と無効化、クライアントとしてのライセンスサーバへの接続などを簡単におこなっていただけます。マシン固定認証用 GUI と、ライセンスサーバ認証用 GUI がそれぞれ別途用意しており、お望みの認証形態によって使用する License Administrator が異なります。ライセンスサーバ認証用 GUI は、事前に別途 License Server プログラムをインストールする必要があります。ライセンスサーバの準備は P23 「License Server のダウンロードとインストール」をご確認ください。GUI の使用できないご環境の場合は、同様の操作をコマンドラインからも行っていただけます。コマンドラインを使用したライセンス認証の手順は P45 「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

License Administrator の起動方法

ここでは License Administrator の起動方法を記載します。

マシン固定認証用 License Administrator の起動方法

Windows の場合：

スタート画面 > すべてのアプリ > ENVIX.x > L3Harris License Administrator

Linuxの場合：

ターミナルから以下のコマンドを入力してください。

```
# harrislicense
```

Macintoshの場合：

Finder > アプリケーション > harris > LicenseAdministrator

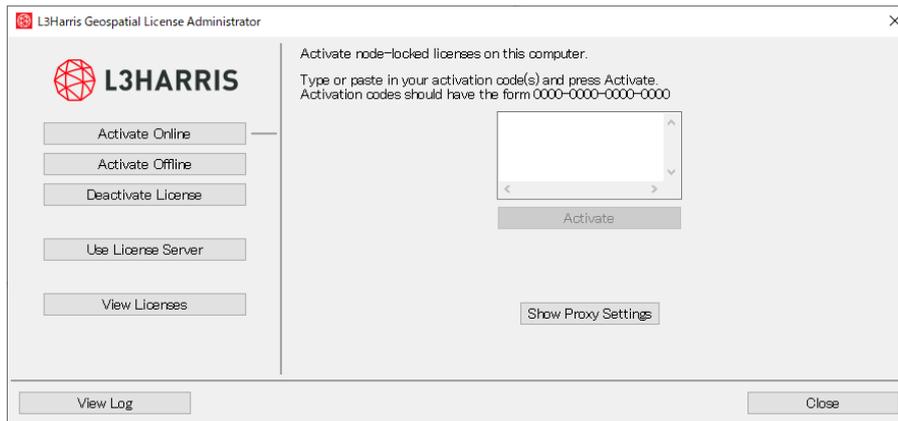


図 13 : マシン固定認証用 License Administrator

ライセンスサーバ認証用 License Administrator

Windowsの場合：

エクスプローラから“ENVIインストールフォルダ”¥license_server¥bin”に移動して license_administrator.exe をクリックして実行してください。

Linuxの場合：

ターミナルから以下のディレクトリにある実行シェルスクリプトを実行してください。

```
# INSTALL_DIR/license_server/bin/license_administrator.sh
```

マシン固定ライセンスとして認証する

ここではマシン固定のライセンスとしてライセンス認証する手順を説明します。この手順はコンピュータがインターネットに接続している必要があります。インターネットに接続していることを確認してから実施してください。ここではLicense Administratorを使用したライセンス認証の手順を説明します。コマンドラインからライセンス認証を行う場合はP45「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

バージョンアップの場合

1. P19「License Administratorの起動方法」を参照し、マシン固定認証用License Administratorを起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。
2. 以前のバージョンで既に認証しているライセンスをお持ちの場合、View Licensesの右側に新しいライセンスシステムへの Migrate License に関するメッセージが表示されます。右下の「View License」ボタンで、認証されているライセンスが確認できます。念のため、認証されているライセンスのMNT番号と認証コード番号をご確認いただき、メモを取ってください。

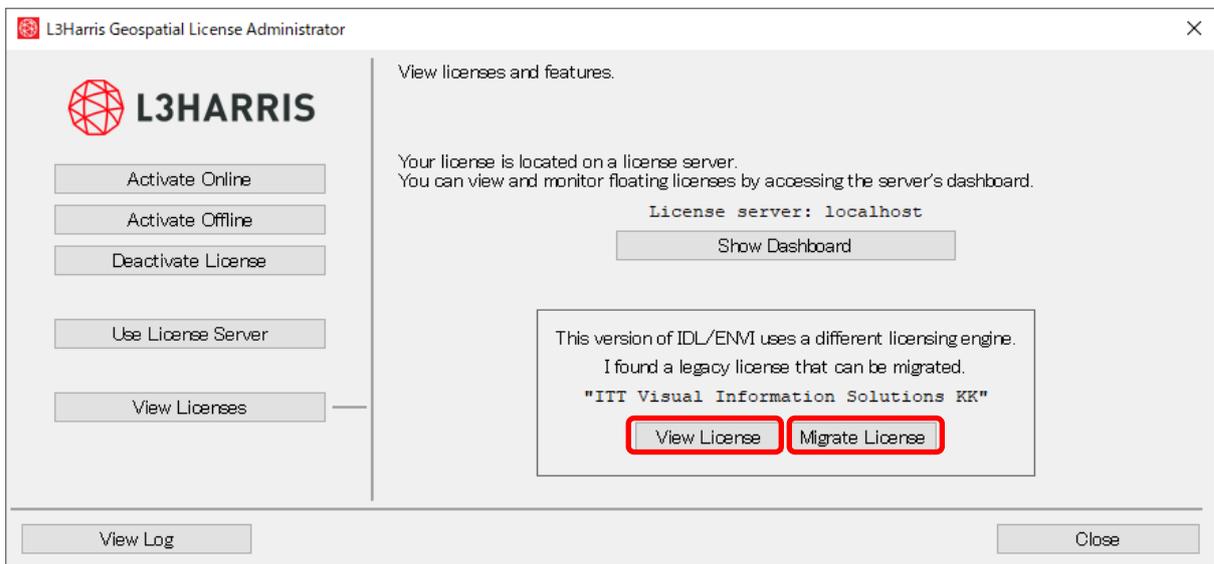


図 14 : MigrateLicense

3. 「Migrate License」をクリックすると既存の認証コードを用いて自動的に新しいライセンスシステムでの認証が開始されます。
4. 以上で認証は完了です。認証したライセンスは View Licenses ボタンで表示できます。License Administratorを閉じてください。P34「ソフトウェアの起動方法」を参照してENVI/IDLを起動してください。もし新ライセンスシステムへのライセンス移行内容でエラー等がある場合はエラーメッセージ内容を添えて弊社サポートまでお問い合わせください。

新規ご購入の場合

1. P19「License Administratorの起動方法」を参照し、マシン固定認証用License Administratorを起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。

2. 画面左側の**Activate Online**ボタンをクリックしてください。
3. 右側のテキストボックスに認証コードを**XXXX-XXXX-XXXX-XXXX**のように入力してください。
(4桁ごとにハイフンを挿入し16桁の数をすべて半角で入力します。) 同時に複数の認証コードを入力することができます。その場合は改行して入力してください。
4. **Proxy**サーバを経由してインターネット接続をしている場合には、「**Show Proxy Settings**」をクリックし、「**Use a proxy server**」にチェックを入れ、サーバ名 / ポート番号を入力します。
5. **Activate**ボタンをクリックしてください。

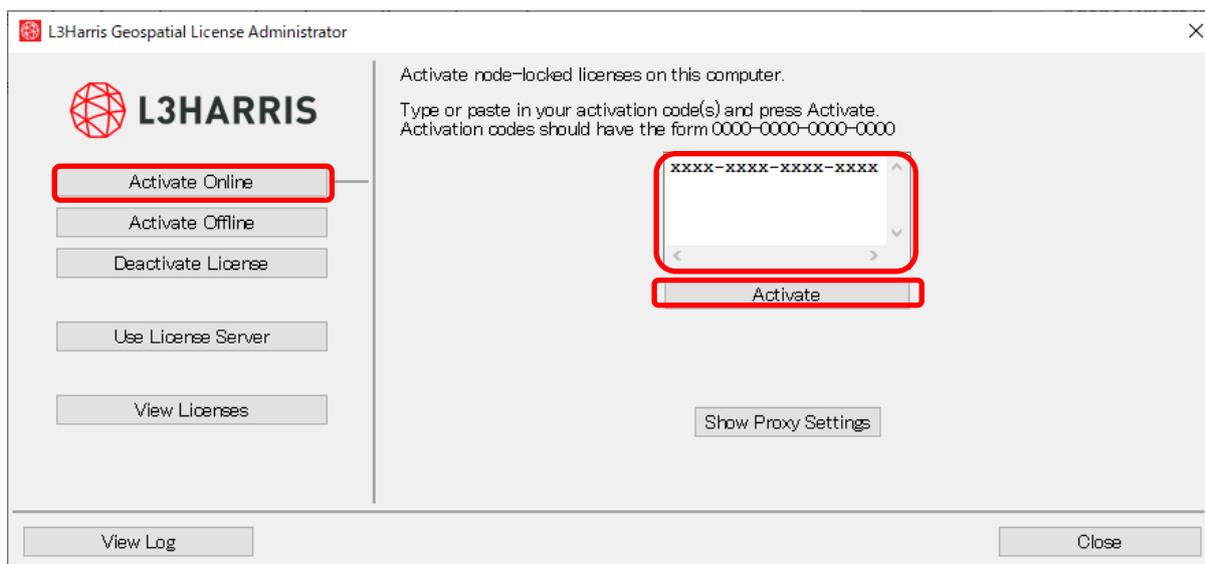


図 15 : Activate License

6. 以上で認証は完了です。認証したライセンスは **View Licenses** ボタンで表示できます。**License Administrator**を閉じてください。P34「ソフトウェアの起動方法」を参照してENVI/IDLを起動してください。

ライセンスサーバとして認証する

ここでは、ライセンスサーバとしてライセンス認証する手順を説明します。正しくライセンスサーバを設定するために、次項「ライセンスサーバ認証の注意事項」をご一読ください。

ライセンスサーバ認証の注意事項

ライセンスサーバとしてライセンス認証する際の注意事項を説明します。ライセンス認証の問題を防ぐため、必ずご確認ください正しく設定してください。

前バージョンからのバージョンアップの場合は、ライセンス移行のため既存の Flexnet ライセンスサーバをアンインストールする前に、新ライセンスサーバをインストールして認証移行作業を実施してください。

License Server のダウンロードとインストール

ライセンスサーバとして認証するには License Server プログラムのインストールが必要です。インストーラは製品ダウンロードサイトからダウンロードできます。

MacOS はライセンスサーバとしては動作いたしません。ライセンスサーバはライセンスサーバのサポート OS を P.2「License Server サポートプラットフォーム」にてご確認の上インストールしてください。サポート対象外の OS では動作の保証をいたしかねますのでご了承ください。インストールとライセンス認証を行うには管理者権限または管理者グループのメンバーであることが必要です。

(Linux の場合はログインしているユーザがルートまたは同等のアクセス権限を持つ必要があります。) この権限がないと、インストールやライセンス認証に失敗しますのでご注意ください。

ファイアウォールの設定

ライセンスサーバはデフォルトで TCP / IP ポート 4080 および TCP / IP ポート 40443 で通信するように構成されています。ライセンスサーバマシンにファイアウォールが使用されている場合、TCP ポート 4080 および 40443 のリスニングを許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。必要に応じて、システムまたはネットワーク管理者に相談して、インストールの事前にライセンスサーバマシンのファイアウォールを設定してください。この作業はユーザのセキュリティ環境依存の設定となりますのでインストール作業とは別途実施する必要があります。

マシンのシステム時刻

ライセンスサーバマシン、クライアントマシン共に、システムの現在時刻を正しく設定してください。時刻が大きくずれていると、認証に失敗したりクライアントでライセンスが利用できないことがあります。

License Server をダウンロードする

P8「製品のダウンロード」を参照し、製品ダウンロードサイトから適合する OS の “Next-Generation License Server” という名称のライセンスサーバプログラムインストーラをダウンロードしてください。

License Server をインストールする

License Server をインストールします。

Windows の場合

1. License Server をインストールします。ダウンロードした License Server プログラムインストーラ “setup-license_serverxx-win.exe” をダブルクリックしてください。インストーラが起動しますので、Next をクリックしてインストールを開始してください。
※ xx はバージョンです。

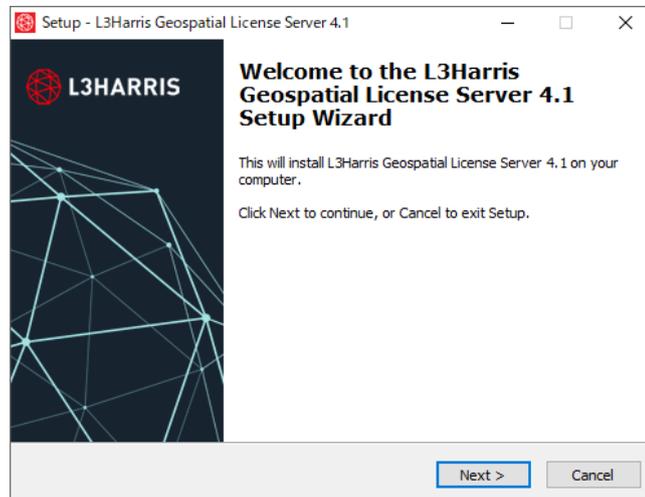


図 16 : Welcome

2. インストールディレクトリを設定します。デフォルトでは C:\Program Files\Harris\license_server となっています。デフォルトのフォルダにインストールするにはそのまま Next をクリックしてください。別の場所にインストールする場合は、Browse をクリックしフォルダ選択ダイアログで別のフォルダを選択してください。特別な事情がない場合はデフォルトのインストール先にインストールしてください。

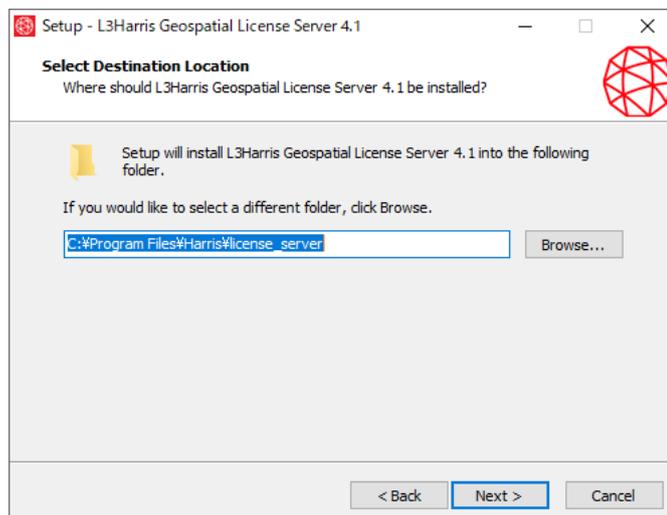


図 17 : Select Destination Location

3. インストールする製品構成を確認し、Next をクリックします。ライセンスサーバは、Node.js と MongoDB のインストールが必須となります。

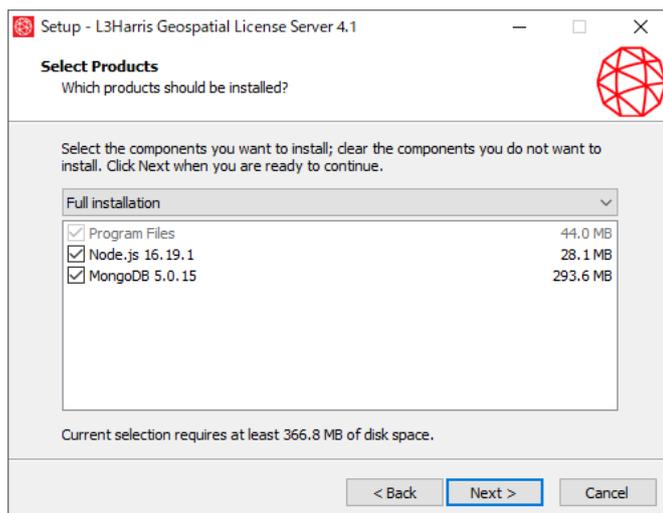


図 18 : Select Products

4. Ready to Install で設定を確認して、問題なければ Install をクリックしてください。

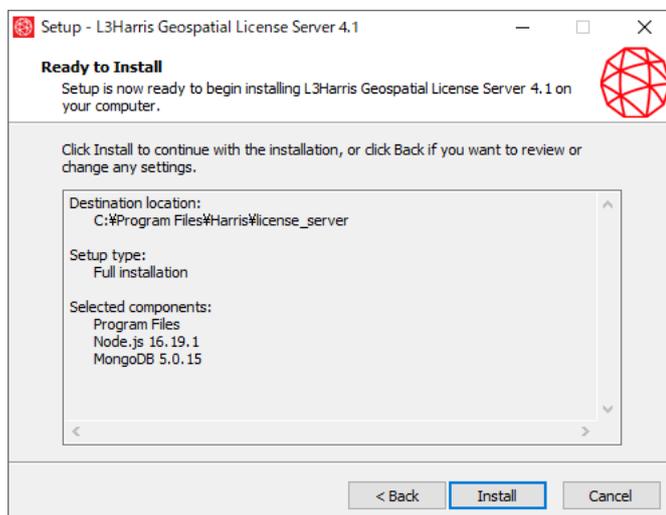


図 19 : Ready to Install

5. インストールが完了したら Finish をクリックしてください。

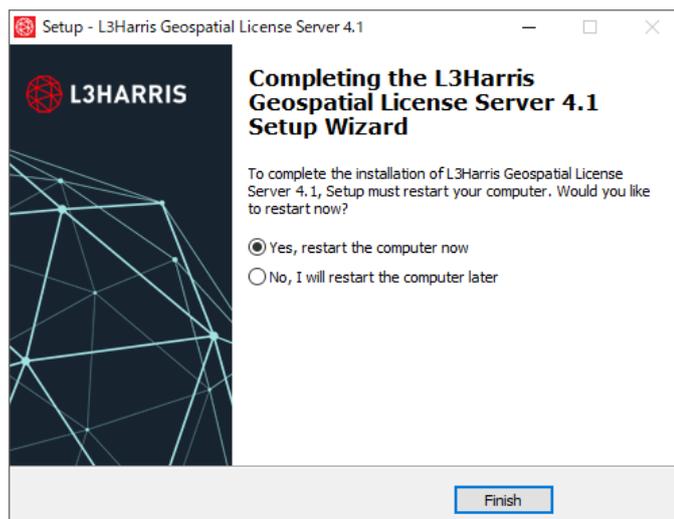


図 20 : Completing Setup Wizard

Linux の場合

以下の手順に従って Linux 版のソフトウェアをインストールしてください。Linux 版のソフトウェアのインストールは、ターミナル内にて行ないます（GUI ベースではありません）。

1. ダウンロードしたインストーラを解凍します。

```
# gunzip setup-license_serverxx-linux.tgz
# tar -xf setup-license_serverxx-linux.tar
# cd license_serverxx
```

※*filename* はインストーラのファイル名を示します。インストーラは *envixx-linux.tar.gz*、*idlxx-linux.tar.gz* (*xx* はバージョンを示します。) のようなファイル名となります。

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、ディスクドライブにソフトウェアのインストールディスクを挿入してください。Linux の場合、オートマウントが不正な許可で実行されることがあります。インストールする際、アンマウントとマウントコマンドを以下のように入力するとインストールがスムーズに行えます。

[コマンド例: DVD ドライブが */dev/hdc* の場合]

```
# umount /dev/hdc
# mount -o ro -t udf /dev/hdc /media
```

2. 解凍先のディレクトリ内の *install_linux.sh* を実行してインストールを開始します。以下のコマンドを入力してください。

```
# ./ install_linux.sh
```

※インストール DVD を使用しインストールする場合は、DVD 内の `install.sh` を実行してください。

```
# /bin/sh /DVD-PATH/install-linux.sh
```

(DVD-PATH は DVD ドライブのパスです。上記手順 1 の例では `/media` となります。)

3. 利用規約が表示されるので最後まで確認し、同意する場合には `y` ボタンを押下して先に進みます。

```
Do you accept all of the terms of the preceding license agreement? (y/n): y
```

4. 規約に同意した後、端末に `MongoDB Community Server 5.x` がインストールされているかを自動検出します。ここで検出されなかった場合、対話的に OS に依存した同梱の `MongoDB Community Server 5.0.11` をインストールすることができます。

```
*****
* Install Requirements
*****

L3Harris Geospatial License Server requires MongoDB Community Server 5.0.11.
Would you like to install MongoDB Community Server 5.0.11 [y/n]?

y
Installing MongoDB Community Server 5.0.11...
MongoDB Community Server was installed successfully!
```

5. インストールディレクトリについて確認されます。デフォルトのインストール先は `/usr/local/harris` 配下の `license_server` ディレクトリです。

```
*****
* Installation Directory
*****

Please enter the installation directory [/usr/local/harris/license_server]:

Installing files to /usr/local/harris/license_server...
```

6. **License Server** の実行ユーザを指定するように案内されます。ユーザ名等を設定することも可能ですが、特に指定がない場合、ほとんどの **Linux** ディストリビューションで利用できる汎用ユーザ ID の「**daemon**」を指定してください。

```
*****  
  
* Set up License Server user account  
  
*****  
  
Enter the name of the user account that will run the service.  
  
This should be an account with limited privileges: daemon
```

7. ここまでの情報でセットアップが行われ、続けてライセンスを認証する場合は以下のように **y** を入力してください。y ボタンを押下するとライセンスサーバ認証用 **License Administrator** が起動しますので、**P30**「ライセンス認証する」の手順でライセンス認証してください。n を入力すると、ライセンス認証は行わずにインストールを完了します。あとでライセンスを認証する場合は **P30**「ライセンス認証する」の手順に従ってください。

```

*****
* Setup License Server as a system service
*****

Created symlink /etc/systemd/system/multi-user.target.wants/mongod.service →
/lib/systemd/system/mongod.service.

Setting service to run under user account: daemon
Setting service to run under group: daemon
Using default mode: systemd

Installing service on /etc/systemd/system/l3harrisgeospatiallicenseserver.service
Running systemctl daemon-reload...
L3Harris Geospatial License Server installed as a service.
Running systemctl start l3harrisgeospatiallicenseserver...
L3Harris Geospatial License Server started.

Created symlink /etc/systemd/system/multi-
user.target.wants/l3harrisgeospatiallicenseserver.service →
/etc/systemd/system/l3harrisgeospatiallicenseserver.service.

*****
* Verify License Server is running
*****

Do you want to run the License Administrator? (y/n):

```

8. 以下のようなメッセージが表示され、ライセンスの認証は完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。P34「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

```
*****
Installation is Complete.
*****

The License Server service can be controlled with the commands:

sudo /usr/local/harris/license_server/node/bin/node
/usr/local/harris/license_server/service stop

sudo /usr/local/harris/license_server/node/bin/node
/usr/local/harris/license_server/service start

sudo /usr/local/harris/license_server/node/bin/node
/usr/local/harris/license_server/service restart

The logs can be found at:

/usr/local/harris/license_server/logs

The configuration file can be found at:

/usr/local/harris/license_server/config/production.json
```

ライセンス認証する

ライセンスサーバとしてライセンス認証する手順を説明します。ライセンス認証を行う際には、前項の「ライセンスサーバ認証の注意事項」を確認し、「License Server をダウンロードする」、「License Server をインストールする」を実施して、正しく認証してください。ここでは **License Administrator** を使用してライセンス認証する手順を説明します。コマンドラインからライセンス認証を行う場合は P45 「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

バージョンアップの場合

1. P19 「License Administratorの起動方法」のライセンスサーバ認証用を参照し、フローティングライセンス用の **License Administrator** を起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。
2. **Migrate License** ボタンをクリックしてください。以前のバージョンで既に認証しているライセンスをお持ちの場合、右側の「**Query**」ボタンをクリックすると **Flexnet** ライセンスサーバで認証中のライセンス情報を収集できます。念のため、認証されているライセンスの **MNT** 番号と認証コード番号をご確認いただき、メモを取ってください。

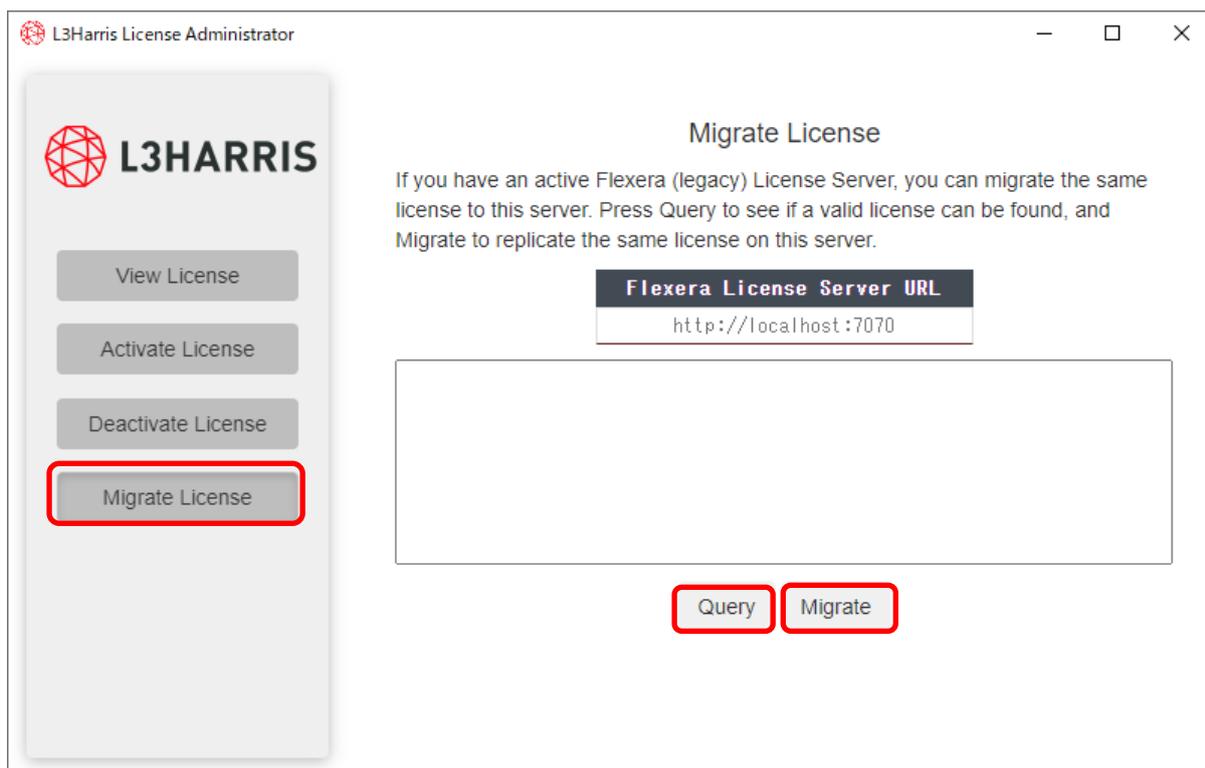


図 21 : Migrate License

3. 「Migrate」をクリックすると既存の認証コードを用いて自動的に新しいライセンスシステムでの認証が開始されます。
4. 以上で認証は完了です。認証したライセンスは **View Licenses** ボタンで表示できます。**License Administrator**を閉じてください。P34「ソフトウェアの起動方法」を参照してENVI/IDLを起動してください。もし新ライセンスシステムへのライセンス移行内容でエラー等がある場合はエラーメッセージ内容を添えて弊社サポートまでお問い合わせください。

新規ご購入の場合

1. P19「License Administratorの起動方法」のライセンスサーバ認証用を参照し、フローティングライセンス用のLicense Administratorを起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。

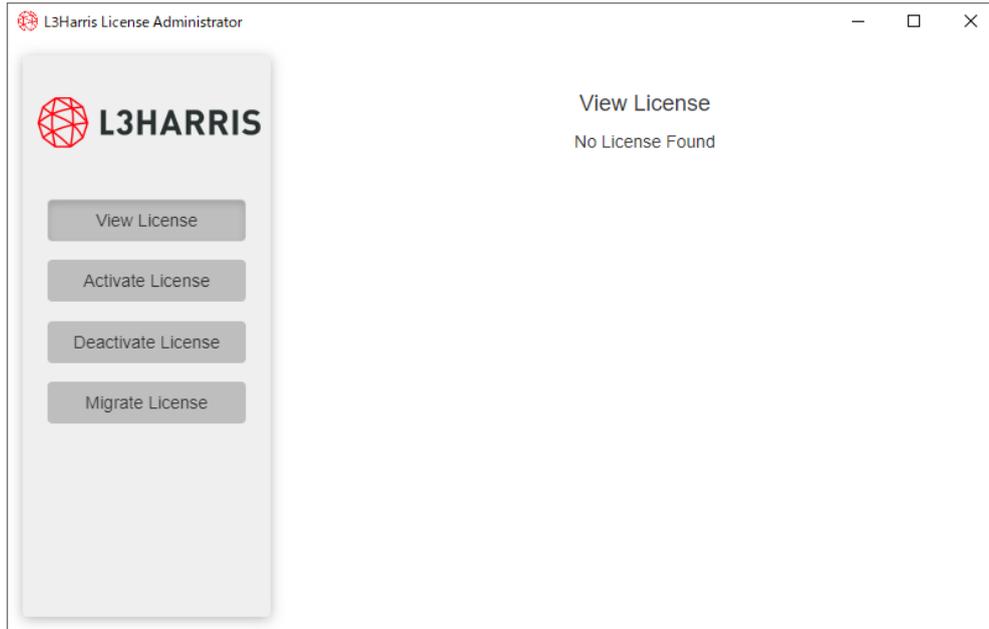


図 22 : ライセンスサーバ認証用 License Administrator

2. License Administrator の左側で Activate License ボタンをクリックし、右側の画面から認証コード、ライセンス数を入力します。テキストボックスに認証コードを XXXX-XXXX-XXXX-XXXX のように入力してください。(4桁ごとにハイフンを挿入し16桁の数をすべて半角で入力します。) 一回の認証で複数の認証コードを入力することができます。その場合は改行して入力してください。
3. Count に認証するライセンス数を入力してください。

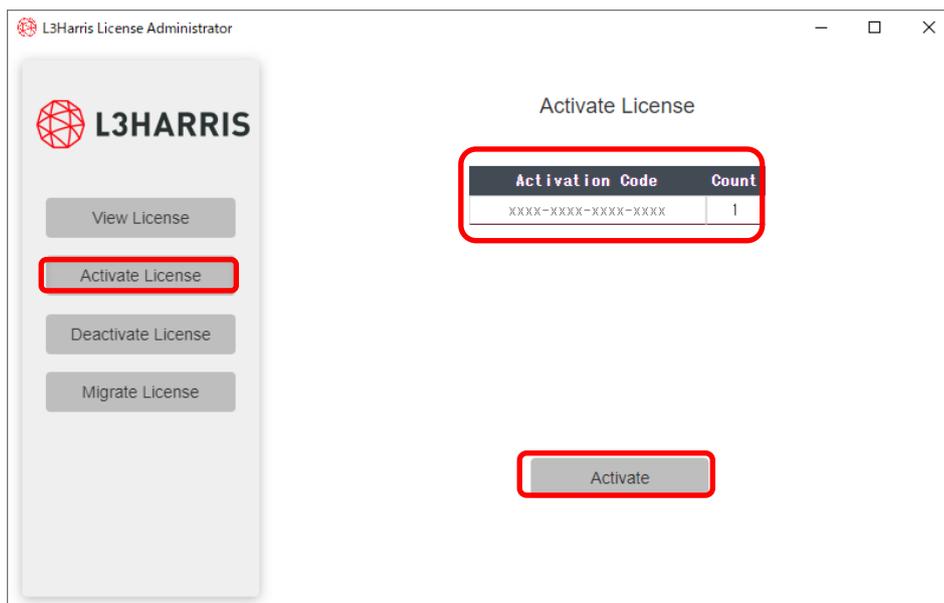


図 23 : Activate Licenses on this Server

4. Activate ボタンをクリックしてください。

5. 認証に成功したら「Activation Successful」のメッセージが表示されライセンスの認証は完了です。View License ボタンで認証したライセンスを表示できます。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。P34「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

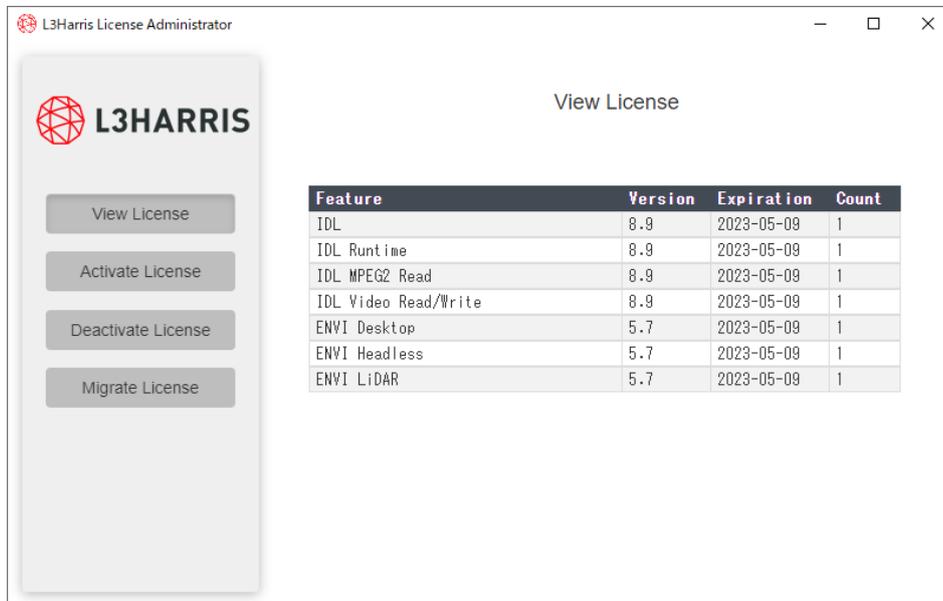


図 24 : Activate succeeded

クライアントとしてライセンス認証する

ライセンスサーバのクライアントの設定について説明します。クライアントとしてライセンス認証を行うには、マシン固定認証用License Administratorを使用してライセンスサーバに接続します。

(License Administratorを使用しない場合の接続方法はP45「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。)ライセンス認証を正常に行うためには、ライセンスサーバのサービスが正しく起動している必要があります。

1. P19「License Administratorの起動方法」を参照し、マシン固定認証用License Administratorを起動してください。すでに起動している場合は次の手順に進んでください。
2. 左側のUse License Serverボタンをクリックしてください。
3. Serverにライセンスサーバマシンのコンピュータ名かIPアドレスを入力し、Portのポート番号はそのままにしてください。Secure通信をするにはSecureチェックボックスにチェックを入れてください。Secure通信用の40443番ポートが使用されます。

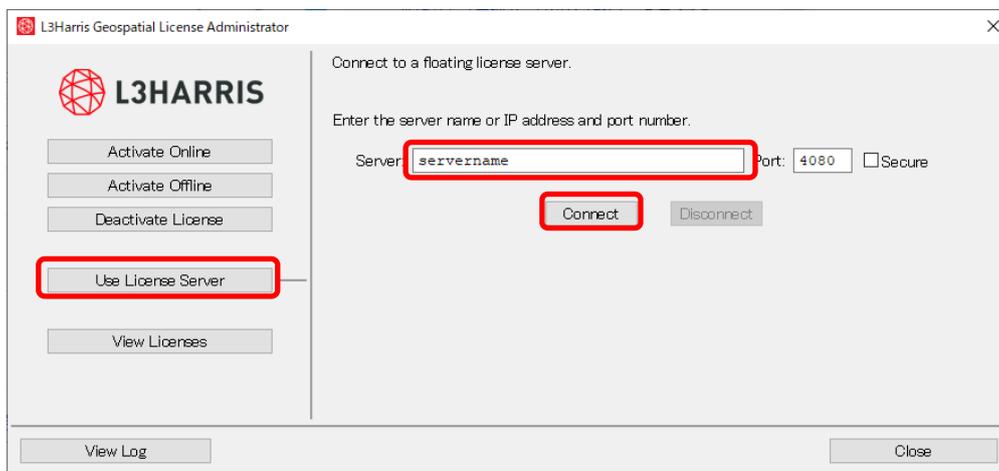


図 25 : Connect to an existing license server

4. Connectボタンをクリックするとライセンスサーバへの接続が完了します。P34「ソフトウェアの起動方法」に進みENVI/IDLを起動してください。

ソフトウェアの起動方法

この章では、ソフトウェアの起動方法について説明します。ソフトウェアは起動時にライセンスを確認し起動します。

Windows の場合

ENVI の起動方法

Windows で ENVI を起動するには、スタートメニュー-> すべてのアプリ-> ENVI x.x-> ENVIx.x を選択します。

注: ENVI5.7 より 64bit 版のみの提供となります。32bit 版 ENVI の提供は終了しました。

IDL の起動方法

Windows で IDL を起動するには、スタートメニュー-> すべてのアプリ-> IDL x.x-> IDLx.x を選択します。

※ENVI をインストールした場合はスタートメニュー -> すべてのアプリ -> ENVI x.x -> IDL x.x

注: IDL8.9 より 64bit 版のみの提供となります。32bit 版 ENVI の提供は終了しました。

Linux の場合

Linux で ENVI / IDL を起動するには、環境の設定を行った後にコマンドを使用して起動します。

環境の設定

Linux 版の ENVI5.7 / IDL8.9 のインストールの際、シンボリックリンクの作成を選択すると、`/usr/local/bin` ディレクトリに複数の起動コマンドのシンボリックリンクを作成します。ENVI5.7 では、`.bashrc` などに環境変数やエイリアスを設定しなくても、`envi` 起動コマンドを実行することができます。また、`envi56` などとバージョンを明記したコマンドで、複数バージョンの ENVI がインストールされている場合も明示的にバージョンを選択して起動することができます。シンボリックリンクを作成しなかった場合、マシンのパス環境の設定を行う必要があります。ENVI / IDL では以下のスクリプトが提供されますので手順に従い環境の設定をしてください。

```
ENVI :      envi_setup、envi_setup.ksh、envi_setup.bash
IDL :      idl_setup、idl_setup.ksh、idl_setup.bash
```

これらのスクリプトは、ENVI / IDL に必要な環境変数とエイリアス等を設定します。ENVI / IDL にアクセスする各ユーザのログインスクリプト (`.cshrc`、`.profile`、または `.bashrc`) を変更してください。ユーザがログインするたびにこれらの設定が自動的に実行されます。`.cshrc`、`.profile`、または `.bashrc` ファイルを変更するには、以下の手順を実行します。

1. テキストエディタを使用して `.cshrc`、`.profile`、または `.bashrc` ファイルを修正してください。
2. C シェルユーザの場合は、`.cshrc` ファイルに以下の行を追加してください。

```
source <INSTALL_DIR>/envixx/bin/envi_setup
source <INSTALL_DIR>/idlxx/bin/idl_setup
```

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ (デフォルトでは `/usr/local/harris`) を示し、`xx` はソフトウェアバージョンを示します。

3. Korn シェルユーザの場合は、`.profile` ファイルに以下の行を追加してください。

```
. <INSTALL_DIR>/envixx/bin/envi_setup.ksh
. <INSTALL_DIR>/idlxx/bin/idl_setup.ksh
```

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ（デフォルトでは/usr/local/harris）を示し、xx はソフトウェアバージョンを示します。

4. Bash シェルユーザの場合は、.bashrc ファイルに以下の行を追加してください。

```
. <INSTALL_DIR>/envixx/bin/envi_setup.bash
. <INSTALL_DIR>/idlxx/bin/idl_setup.bash
```

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ（デフォルトでは/usr/local/harris）を示し、xx はソフトウェアバージョンを示します。

5. .cshrc、.profile、または.bashrc ファイルを実行するには一旦ログアウトしてもう一度ログインするか、以下のコマンドのいずれかを使用してホームディレクトリからファイルを実行してください。

```
C シェル用:      source .cshrc
Korn シェル用:  . .profile
Bash シェル用:  . .bashrc
```

ENVI 起動コマンド

Linux 版の ENVI は、以下のコマンドを実行して起動することができます。

ディレクトリ:<INSTALL_DIR>/envi_{xx}/bin

※<INSTALL_DIR>はメインのインストールディレクトリ（デフォルトでは/usr/local/harris）を示し、xx はソフトウェアバージョンを示します。

コマンド名	説明
envi	ENVI を起動します。ENVI+IDL ライセンスをご利用の場合は ENVI+IDL を起動します。
envi57	複数バージョンの ENVI がインストールされている際、意図的に ENVI5.7 を選択して起動します。
envi -classic	ENVI Classic を起動します。ENVI+IDL をご利用の場合は ENVI Classic+IDL を起動します。
envi_rt	ENVI のみを起動します。
envi_rt57	複数バージョンの ENVI がインストールされている際、意図的に ENVI5.7 を選択して起動します。
envi_rt -classic	ENVI Classic を起動します。
envihelp	ヘルプを起動します。

IDL 起動コマンド

Linux / UNIX 版の IDL は、以下のコマンドのいずれか 1 つを実行して起動することができます。

コマンド名	説明
idl	コマンドラインのみの IDL を起動します。
idl89	複数バージョンの IDL がインストールされている際、意図的に IDL8.9 を選択して起動します。
idlde	IDL ワークベンチを起動します。
idlde89	複数バージョンの IDL がインストールされている際、意図的に IDL8.9 を選択して起動します。
idl -vm	IDL Virtual Machine を起動します。
idl -rt	IDL のランタイムバージョンを起動します。
idlhelp	ヘルプを起動します。
harrislicense	License Administrator を起動します。

※ENVI5.1 / IDL8.3 から Linux / UNIX 版は 64bit 版のみ対応しています。

Macintosh の場合

Macintosh では、Applescript もしくはターミナルから ENVI / IDL を起動することができます。

Applescript からの実行

Applescript から ENVI / IDL を実行するには、インストールディレクトリ内の envixx (idlxx)ディレクトリ（デフォルトでは/Applications/harris/envixx あるいは /Applications/harris/idlxx）から Applescript アプリケーションをダブルクリックして起動します。

アイコン名	説明
ENVI	ENVI を起動します。
ENVI+IDL	ENVI と IDL を起動します。
ENVIHelp	ENVI のヘルプを起動します。
LicenseAdministrator	License Administrator を起動します。

アイコン名	説明
IDL	IDL ワークベンチを起動します。
IDLCommandLine	コマンドラインのみの IDL を起動します。
IDLHelp	IDL のヘルプを起動します。
IDLVirtualMachine	IDL Virtual Machine を起動します。
LicenseAdministrator	License Administrator を起動します。

ターミナルからの実行

Mac OS X のターミナルから ENVI / IDL を実行する方法について説明します。

1. Applications/Utilities フォルダからターミナルを起動してください。
2. ENVI / IDL を実行する前に、起動するマシンの各環境をセットアップする必要があります。環境設定に関しては、P35 の「Linux 版 ENVI / IDL の起動方法 環境の設定」を参照してください。
3. コマンドラインから以下のコマンドを実行して ENVI を起動することができます。

コマンド名	説明
envi	ENVI を起動します。ENVI+IDL をご利用の場合は ENVI+IDL を起動します。
envi -classic	ENVI Classic を起動します。ENVI+IDL をご利用の場合は ENVI Classic+IDL を起動します。
envi_rt	ENVI を起動します。
envi_rt -classic	ENVI Classic を起動します。
envihelp	ヘルプを起動します。

コマンド名	説明
idl	コマンドラインのみの IDL を起動します。
idlde	IDL ワークベンチを起動します。
idl -vm	IDL Virtual Machine を起動します。
idl -rt	IDL のランタイムバージョンを起動します。
idlhelp	ヘルプを起動します。
harrislicense	License Administrator を起動します。

※ENVI5.1 / IDL8.3 から MacOS は 64bit 版のみ対応しています。

ライセンスサーバの管理（ライセンス管理者用）

ここでは ENVI/IDL のフローティングライセンスのライセンスサーバの管理について説明します。ライセンスサーバ管理ソフトウェアである License Server のインストールとアンインストールの手順や、ファイアウォールの設定、ライセンスサーバサービスの管理などについての手順を記載します。ここでの説明はシステム管理者様向けとなっています。

License Server のインストール

ENVI/IDL のライセンスサーバを構築するには、License Server をインストールする必要があります。インストールの注意事項と手順については P23「License Server のダウンロードとインストール」を参照してください。

License Server のアンインストール

ここでは License Server のアンインストールの手順を説明します。

Windows の場合

1. ライセンス認証している認証コードがあった場合、P43「ライセンスを無効化する」を参照してすべてのライセンスを無効化してください。
2. スタートメニュー -> コントロールパネル -> プログラムと機能 -> L3Harris Geospatial License Server x.x を選択して、アンインストールボタンをクリックしてください。
3. アンインストールの確認ダイアログで「はい」をクリックするとアンインストールが開始します。
4. アンインストール完了のダイアログで「OK」をクリックしてください。アンインストールが完了します。

Linux の場合

1. ライセンス認証している認証コードがあった場合、P43「ライセンスを無効化する」を参照して念のためすべてのライセンスを無効化してください。
2. 以下のアンインストール用スクリプトが用意されております。スクリプトはライセンスを無効化し、サービスを停止しライセンスサーバを削除します。

```
<INSTALL_DIR>/license_server/scripts/uninstall_linux.sh
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは/usr/local/harrisです。

3. 以下のコマンドでライセンスサーバサービスをアンインストールします。

```
# sudo <INSTALL_DIR>/license_server/scripts/uninstall_linux.sh
```

4. 以上でアンインストールの完了です。

ライセンスの認証

ライセンスの認証につきましては、P19「ソフトウェアのライセンス設定」の手順を参照してください。コマンドラインからの認証につきましては Appendix の「コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する」を参照してください。

有効なライセンスフィーチャーを確認する

ここでは、ライセンスフィーチャーの詳細を確認するための手順を説明します。

Windows の場合

License Administrator から確認する

1. 以下のメニューよりマシン固定認証用 License Administrator を起動します。

スタートメニュー -> すべてのアプリ -> ENVIx.x > Harris License Administrator

※IDLをインストールした場合はすべてのアプリ -> IDLx.x -> Toolsから起動してください。

※x.xはバージョンを示します。

2. 画面左側の View Licenses ボタンをクリックしてください。画面右側でマシン固定ライセンス認証しているライセンスとバージョンと保守期限日付の一覧を確認できます。
3. ライセンスサーバ認証のライセンスを確認するには、Use License Server でライセンスサーバと接続しておき、View Licenses の画面右側の Show Dashboard をクリックし、ブラウザ上でライセンスサーバダッシュボードを開いてください。ダッシュボードでは、使用状況も確認できます。各フィーチャーの有効期限総とライセンス数、使用中のライセンス数、使用ユーザ等を確認できます。

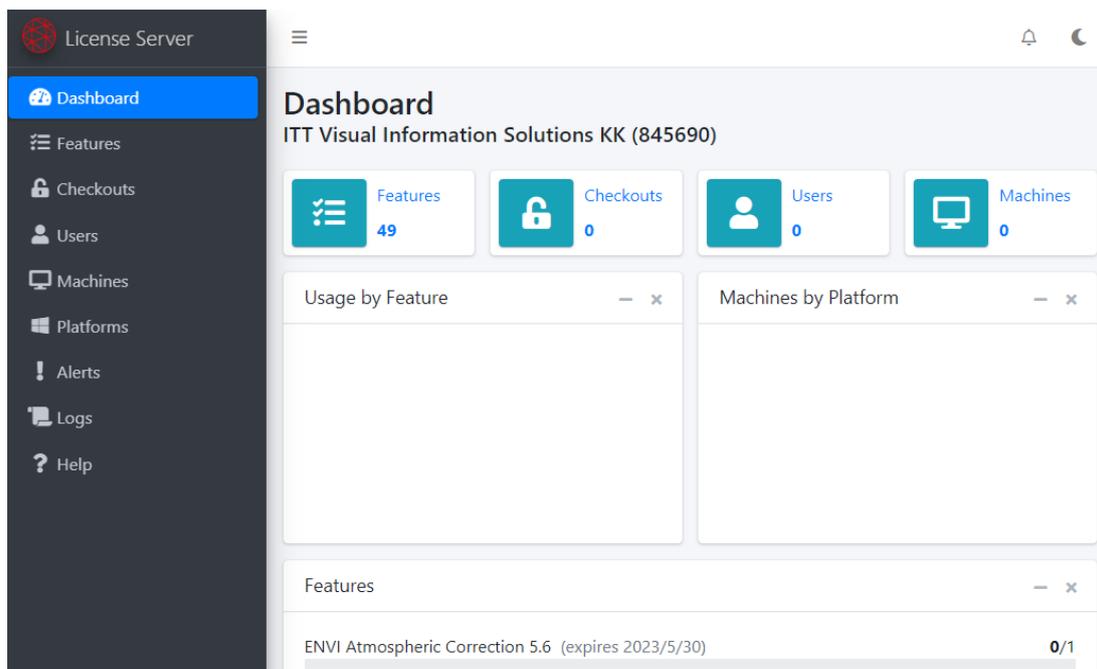


図 26 : License Server Dashboard

コマンドラインから確認する

コマンドプロンプトを開いて、カレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>%license_server%bin
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:%Program Files%Harris です。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:%Program Files%Harris%license_server%bin "
```

ライセンスフィーチャーを表示する

ローカルコンピュータ（現在コマンド入力しているコンピュータ）上のライセンスサーバ認証しているライセンスフィーチャーのリストを表示します。

```
# licensing.exe show license
```

Linux の場合

License Administrator から確認する

1. ターミナルから以下のコマンドを入力してマシン固定認証用License Administratorを起動します。

```
# harrislicense
```

2. 画面左側の **View Licenses** ボタンをクリックしてください。画面右側でマシン固定ライセンス認証しているライセンスとバージョンと保守期限日付の一覧を確認できます。
3. ライセンスサーバ認証のライセンスを確認するには、**Use License Server** でライセンスサーバと接続しておき、**View Licenses** の画面右側の **Show Dashboard** をクリックし、ブラウザ上でライセンスサーバダッシュボードを開いてください。ダッシュボードでは、使用状況も確認できます。各フィーチャーの有効期限総とライセンス数、使用中のライセンス数、使用ユーザ等を確認できます。

コマンドラインから確認する

ターミナルを開いて、カレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/license_server/bin
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは /usr/local/harris です。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/license_server/bin
```

ライセンスフィーチャーを表示する

ローカルコンピュータ（現在コマンド入力しているコンピュータ）上のライセンスフィーチャーのリストを表示します。

```
# ./licensing show license
```

ライセンスサーバサービスの管理

ここではライセンスサーバサービスの開始、停止、ステータス確認、ログファイルの確認などの手順を説明します。

Windows の場合

コントロールパネル -> 管理ツール -> サービスを開いてください。

サービスを開始する

L3Harris Geospatial License Server を選択し、右クリックメニューから開始をクリックしてください。サービスが開始します。

サービスを停止する

L3Harris Geospatial License Server を選択し、右クリックメニューから停止をクリックしてください。サービスが停止します。

ログファイルの場所

以下のディレクトリにログファイルが格納されます。

C:\Program Files\Harris\license_server\logs

Linux の場合

ターミナルからコマンドを入力しサービスを管理します。

サービスを開始する

```
# sudo systemctl start l3harrisgeospatiallicenseserver.service
```

サービスを停止する

```
# sudo systemctl stop l3harrisgeospatiallicenseserver.service
```

サービスのステータスを確認する

```
# sudo systemctl status l3harrisgeospatiallicenseserver.service
```

ログファイルの場所

以下のディレクトリにログファイルが格納されます。

<INSTALL_DIR>/license_server/logs/

ライセンスを無効化する

ライセンスを認証しているマシンを変更したり、ライセンス形態を変更する場合はライセンスを無効化する作業が必要になります。ここでは、ライセンスの無効化の手順について説明します。

マシン固定ライセンスの場合

License Administrator から変更する

1. P19「License Administrator の起動方法」を参照してマシン固定認証用 License Administrator を起動してください。
2. 左側の Deactivate License をクリックします。
3. 無効化する認証コードを選択します。(複数選択可)
4. Deactivate ボタンをクリックするとライセンスが無効化されます。

ライセンスサーバの場合

License Administrator から変更する

1. P19「License Administrator の起動方法」を参照してライセンスサーバ認証用 License Administrator を起動してください。
2. 左側の Deactivate License をクリックします。
3. 右側の認証コードリストを確認してください。
4. 無効化する認証コードを選択します。(複数選択可)
5. Deactivate ボタンをクリックするとライセンスが無効化されます。

Appendix

ここでは、ENVI / IDL のアンインストール手順やコマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを使用する方法、マシンの変更の手順、などを説明します。

ENVI / IDL のアンインストール手順

ENVI / IDL を完全にアンインストールする手順を説明します。操作には、管理者権限が必要です。

Windows の場合

1. マシン上で使用可能なローカルライセンスを無効にします。ライセンスの無効化については P43 「ライセンスを無効化する」を参照してください。
2. ご利用のマシンで License Server をご利用いただいている場合は、P.39 「License Server のアンインストール」を参照し、License Server のアンインストールを実施してください。
3. 専用の WindowsOS ツール（コントロールパネルから起動できる「プログラムの追加と削除」など）を使用して ENVI / IDL をアンインストールします。
4. SARscape、ENVI DeepLearning、ENVI Photogrammetry などの追加製品がインストールされている場合は、専用の WindowsOS ツールを使用して、それぞれをアンインストールします。
5. インストールフォルダ（デフォルトのインストール先は C:\Program Files\Harris）を手動で削除します。
6. 以下のフォルダを手動で削除します
 - (ア) ユーザのホームディレクトリにある .idl フォルダ
 - (イ) IDLWorkspace フォルダ内にある .metadata フォルダ（存在する場合）
 - ※ IDLWorkspace はデフォルトでホームディレクトリに保存されます。
 - (ウ) C:\ProgramData フォルダ内にある Harris フォルダ（存在する場合）

Linux と Macintosh の場合

1. マシン上で使用可能なローカルライセンスを無効にします。ライセンスの無効化については P43 「ライセンスを無効化する」を参照してください。
2. ご利用のマシンで License Server をご利用いただいている場合は、P.39 「License Server のアンインストール」を参照し、License Server のアンインストールを実施してください。Macintosh の場合、ライセンスサーバ形態は適用外なのでこの操作は必要ありません。
3. インストールディレクトリ（Linux では /usr/local が、Macintosh では /Applications がデフォルトのインストール先）から harris フォルダを削除し、ENVI / IDL をアンインストールします。
4. SARscape、ENVI Crop Sciences、ENVI Photogrammetry などの追加製品がインストールされている場合は、対応するインストールディレクトリを削除してそれぞれをアンインストールします。
5. 以下のフォルダを手動で削除するか、アーカイブディレクトリに移動します。
 - (ア) ユーザのホームディレクトリにある .idl フォルダ
 - (イ) IDLWorkspace フォルダ内にある .metadata フォルダ（存在する場合）
 - ※ IDLWorkspace はデフォルトでホームディレクトリに保存されます。
 - (ウ) /tmp/harris フォルダ（存在する場合）

- インストール時にシンボリックリンクを設定している場合は、`/usr/local/bin` に次のようなシンボリックリンクが作成されています。これらを削除してください。
`Idl, harrislicense, harrislicense89, idl89, idlde, idlde89, idltaskengine, idltaskengine89, envi, envi57, idlhelp, idlhelp89`
- ログインスクリプト (`.cshrc`, `.profile`, または `.bashrc`) で `harris` フォルダ配下にある `setup` ファイルを読み込む設定を行っている場合は、その設定を外してください。

コマンドラインを使ってソフトウェアライセンスを設定する マシン固定ライセンスとして認証する

Windows の場合

- コマンドプロンプトを起動して、カレントディレクトリを `ENVI/IDL` インストールディレクトリのアクティベーションユーティリティのディレクトリに設定してください。

<INSTALL_DIR>%ENVI%xx%IDL%xx%license_utils%bin.x86_64

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは `C:\Program Files\Harris` です。

※xx はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:\Program Files\Harris\ENVI57\IDL89\license_utils\bin.x86_64"
```

- 以下のコマンドを入力しライセンス認証します。

`licensing.exe activate [activation-code]`

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の場合】

```
# licensing.exe activate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

ライセンス認証が完了したら `ENVI/IDL` を起動します。P34「ソフトウェアの起動方法」に進んでください。

Linux と Macintosh の場合

- ターミナルを起動して、カレントディレクトリを `ENVI/IDL` インストールディレクトリのアクティベーションユーティリティのディレクトリに設定してください。

Linux : <INSTALL_DIR>/envi%xx/idl%xx/license_utils/bin.linux.x86_64

Macintosh : <INSTALL_DIR>/envi%xx/idl%xx/license_utils/bin.darwin.x86_64

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは Linux は `/usr/local/harris`、Macintosh は `/Applications/harris` です。

※xx はバージョンを示します。

【入力例：Linux のデフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/envi57/idl89/license_utils/bin.linux.x86_64/
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンス認証を実行します。

```
./licensing activate [activation-code]
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の場合】

```
# ./licensing activate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

ライセンス認証が完了したら ENVI/IDL を起動します。P34 「ソフトウェアの起動方法」に進んでください。

ライセンスサーバとして認証する

ライセンスサーバとしてライセンス認証を行う際には、P23 「ライセンスサーバ認証の注意事項」を確認し、P23 「License Server をダウンロードする」、P23 「License Server をインストールする」を実施して、正しく認証してください。

Windows の場合

Windows のコマンドプロンプトからコマンドを入力し、ライセンスを認証します。

1. コマンドプロンプトを起動してカレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>%license_server%bin
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:\Program Files\Harris です。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:\Program Files\Harris\license_server\bin"
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを認証します。

```
licensing.exe activate [activation-code/count]
```

【入力例】

- ・ 認証コード：XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
- ・ ライセンス数：1

```
# licensing.exe activate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX/1
```

3. Proxyサーバ経由の認証を実施する場合は、Proxyサーバ設定用のオプションコマンドを付加いたします。
4. コマンド結果表示の最後に「Activation Successful.」というメッセージが表示されたらライセンスの認証の完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。P34「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

Linux の場合

1. ターミナルを起動して、カレントディレクトリを `ENVI/IDL` インストールディレクトリの `flexnetls-x64_linux-xxxx.xx.x/enterprise` ディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/license_server¥bin
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは `/usr/local/harris` です。

※xxxx.xx.x はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/license_server¥bin
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを認証します。

```
./licensing activate [activation-code/count]
```

【入力例】

- ・認証コード：XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
- ・ライセンス数：1

```
# ./licensing activate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX/1
```

3. コマンド結果表示の最後に「Activation Successful.」というメッセージが表示されたらライセンスの認証の完了です。このマシン上で製品を起動する場合もクライアントとしての設定が必要です。P34「クライアントとしてライセンス認証する」に進んでください。

クライアントとしてライセンス認証する

1. ENVI/IDL インストールディレクトリのライセンスフォルダに `lic_server.dat` という名前のテキストファイルを作成します。

【インストールディレクトリがデフォルトの場合の例】

Windows の場合： C:¥Program Files¥Harris¥license¥lic_server.dat
Linux の場合： /usr/local/harris/license/lic_server.dat
Macintosh の場合： /Applications/harris/license/lic_server.dat

2. 作成したテキストファイルに、テキストエディタなどを使用し以下の内容を記述して保存してください。

http://[license-server-hostname-or-IP-address]:4080

【記述例】

http://myserver.mycompany.com:4080

※ライセンスサーバのコンピュータ名が myserver.mycompany.com、デフォルトの TCP ポート 4080 を使用する場合があります。

3. 以上で設定の完了です。P34「ソフトウェアの起動方法」に進んでください。

コマンドラインを使ってライセンスを無効化する

マシン固定ライセンスの場合

Windows の場合

1. コマンドプロンプトを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリのアクティベーションユーティリティのディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>¥ENVIxx¥IDLxx¥license_utils¥bin.x86_64
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:¥Program Files¥Harris です。

※xx はバージョンを示します。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:¥Program Files¥Harris¥ENVI57¥IDL89¥license_utils¥bin.x86_64"
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。

```
licensing.exe deactivate [activation-code]
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の場合】

```
# licensing.exe deactivate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

Linux と Macintosh の場合

1. ターミナルを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリの license¥bin¥bin.x86_64 ディレクトリに設定してください。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/license/bin/bin.linux.x86_64/
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。

`./licensing deactivate [activation-code]`

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の場合】

```
# ./licensing deactivate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

ライセンスサーバの場合

Windows の場合

1. 現在のライセンスを無効化します。コマンドプロンプトを起動して、カレントディレクトリを ENVI/IDL インストールディレクトリのライセンスサーバのディレクトリに設定してください。

`<INSTALL_DIR>¥license_server¥bin`

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは C:¥Program Files¥Harris です。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd "C:¥Program Files¥Harris¥license_server¥bin"
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。(

`licensing.exe deactivate [activation-code]`

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の場合】

```
# licensing.exe deactivate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

Linux の場合

1. ターミナルを起動して、カレントディレクトリを以下のディレクトリに設定してください。

```
<INSTALL_DIR>/license_server/bin
```

※<INSTALL_DIR>はインストールディレクトリを示します。デフォルトでは /usr/local/harris です。

【入力例：デフォルトのインストールディレクトリにインストールした場合】

```
# cd /usr/local/harris/license_server/bin
```

2. 以下のコマンドを入力しライセンスを無効化します。

```
./licensing deactivate [activation-code]
```

【入力例：認証コードが XXXX-XXXX-XXXX-XXXX の場合】

```
# ./licensing deactivate XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

マシンを変更する

マシンの変更には、現在認証しているライセンスを無効化し、新しいマシンで認証する必要があります。以下の手順にてマシン変更を実施してください。

1. P48「ライセンスを無効化する」を参照し、使用中のライセンスを無効化してください。
2. P45「ソフトウェアのライセンス設定」を参照し、新しいマシンでライセンスを認証してください。

ライセンス数を変更する

マシン固定認証では、ライセンス数の定義が無く、1つのライセンスでセッション数は制限なく使用できます。ライセンスサーバ認証では、すでにライセンス認証済みのマシンは、ライセンスの無効化をすることなしにライセンス数を変更することができません。ライセンス認証済みのマシン上で、一旦ライセンスを無効化してから、再度ライセンスの認証手順を実施します。

故障などでマシンにアクセスできなくなった場合

ライセンス認証しているマシンが故障などの理由でアクセスできず、ライセンスの無効化ができなくなった場合は、support_jp@nv5.com より技術サポートにお問い合わせください。

お問い合わせ先

ENVI/IDLのインストールとライセンスングに関するご質問は、以下テクニカルサポート宛てにお問い合わせください。

NV5 Geospatial株式会社
製品技術サポート窓口
Email : support_jp@nv5.com